令和元年度（2019年度） たまなの教育

教育指導の重点

目指す子ども像

「瞳輝く子ども」

目指す教職員像

「凛とした教職員」

目指す学校像

「活力ある学校」

重点努力事項

◎確かな学力の育成（「分かる授業」の実現、小中連携（一貫）のより一層の推進）
◎いじめ・不登校・問題行動の未然防止と解消（早期発見・早期対応）
◎働きがいのある職場づくりと人材育成（校務改革）
◎地域との連携・協働（家庭教育支援の充実と地域学校協働活動の推進）
◎不祥事の根絶（自覚と誇り）

【目　次】

１　確かな学力の育成
（１）管内における学力の実態
（２）グローバル人材の育成
（３）特別支援教育の充実

２　豊かな心の育成
（１）道徳教育の充実
（２）人権教育の充実
（３）生徒指導の充実

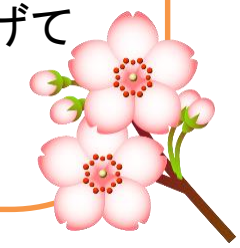
３　健康・体力の向上
（１）学校体育の充実
（２）学校保健の充実
（３）食に関する指導の充実
（４）学校安全の充実

４　社会に開かれた教育課程の実現
（１）地域とともにある学校づくり
（２）コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の
　　一体的推進に向けて
（３）幼・保等、小、中連携の充実
（４）その他
　　（教育の情報化、環境教育の充実　他）

５　その他
（１）教育の情報化
（２）環境教育の充実

玉名教育事務所では、「夢」「挑戦」「感謝」をスローガンとし、「瞳輝く子ども」「凛とした教職員」「活力ある学校」を目指す姿として設定して、各学校における教育指導の充実をお願いしています。

また、５つの重点努力事項を掲げ、先生方と一体となって管内の教育の充実を図っています。本年度の教育活動も、成果と課題の確認から来年度への引き継ぎの時期です。この、「たまなの教育」を活用していただき、「活力ある学校」づくりや「瞳輝く子ども」の育成につなげてほしいと思います。



1　確かな学力の育成
（1）管内における学力の実態

全国学力・学習状況調査
〈県の正答率を100とした場合〉

	小6	中3
国語	**104.6**	94.4
算数・数学	**100.0**	91.4
英語		96.2

平成31年度（2019年度）の結果より

熊本県学力・学習状況調査
〈県の正答率を100とした場合〉

	小3	小4	小5	小6	中1	中2
国語	**101.4**	**101.1**	**101.7**	99.1	97.1	97.9
算数・数学	**100.4**	**100.4**	**100.7**	99.7	96.7	97.6
英語					95.5	97.4

令和元年度（2019年度）の結果より

今後の取組の重点事項

○「安全で安心な学校生活」に向けた取組の充実【基盤となる学級経営】

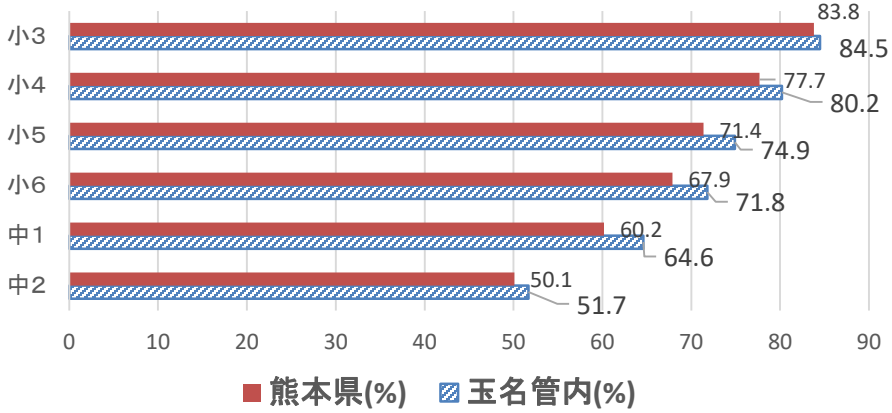
○「分かる授業」の実現に向けた指導の充実【学習活動の質を高める】

○「生活・学習習慣」の向上に向けた指導の充実【小中及び家庭との連携】

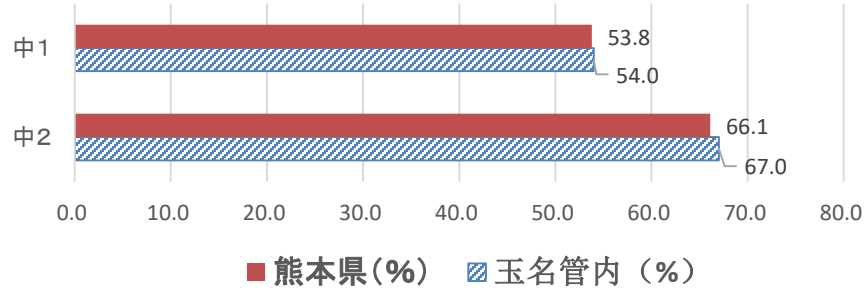
1　確かな学力の育成
(2)グローバル人材の育成

管内の現状【県学力・学習状況調査より】
　〇質問紙調査・・・小学校・中学校ともに県平均を上回る【図1・2】
　〇正答率・・・・・・中2は経年比較において昨年度の正答率を上回る【表】
＜今後の方向性＞　小・中の滑らかな接続による学習意欲の継続と定着率の向上

【図1】英語（外国語活動）の勉強は好きですか。



【図2】英語の授業は（よく＋だいたい）分かりますか。



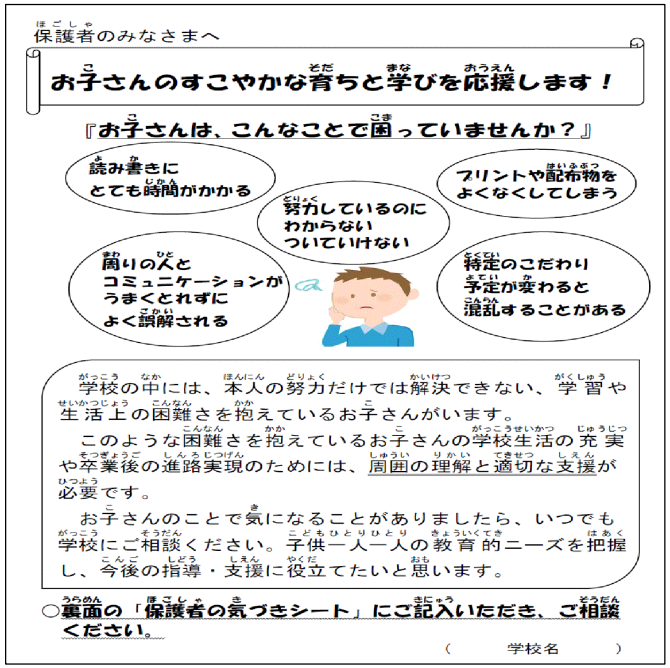
		第1学年		第2学年	
		玉名（%）	県（%）	玉名（%）	県（%）
総合		50．8	53．2	48．5	49．8
領域	聞くこと	61.2	62.1	58.3	61.0
	読むこと	44.1	47.4	52.2	52.0
	書くこと	48.4	51.7	37.3	39.2
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	53.8	55.5	46.7	49.3
	外国語表現の能力	40.8	44.0	28.6	30.7
	外国語理解の能力	54.2	55.4	54.6	56.5
	言語や文化についての知識・理解	50.8	54.6	49.8	50.1
「基礎」に関する問題		56.0	58.4	55.1	56.4
「活用」に関する問題		37.1	39.5	32.2	32.5

【表】令和元年度（2019年度）熊本県学力・学習状況調査（英語）結果

☆さらなる充実に向けて☆
（ア）　年間・単元を見通した授業設計
　　（児童生徒とめあての共有）
（イ）　１単位時間における「言語活動」の充実
（ウ）　帯活動の充実（Small Talk等の実施）
（エ）　定期テストの工夫・改善（中学校）

1　確かな学力の育成
(3)特別支援教育の充実について

全ての子供に「分かる」「できる」を目指す、
学びのユニバーサルデザイン(UD)化を図るためには、
○ 落ち着いて学習できる教室環境
○ 安心できる人間関係　　が基盤となります。



保護者のみなさまへ

お子さんのすこやかな育ちと学びを応援します！

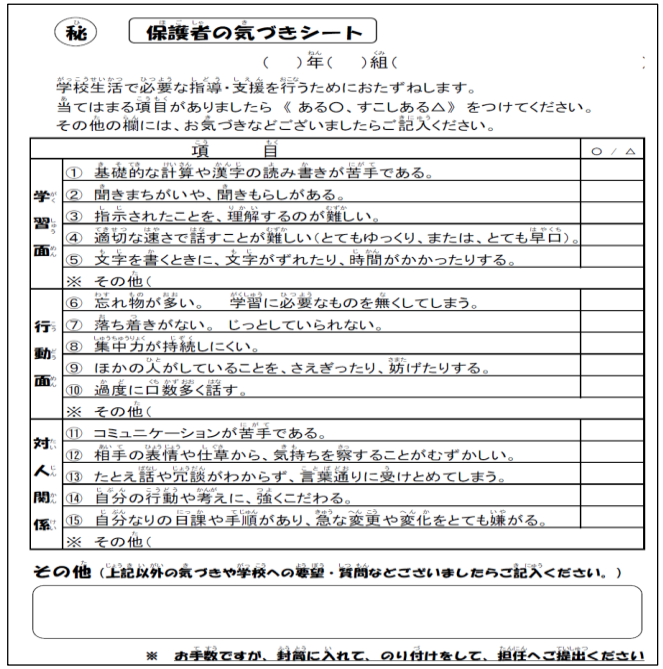
『お子さんは、こんなことで困っていませんか？』

読み書きにとても時間がかかる
プリントや配布物をよくなくしてしまう
努力しているのにわからないついていけない
周りの人とコミュニケーションがうまくとれずによく誤解される
特定のこだわり予定が変わると混乱することがある

学校の中には、本人の努力だけでは解決できない、学習や生活上の困難さを抱えているお子さんがいます。
このような困難さを抱えているお子さんの学校生活の充実や卒業後の進路実現のためには、周囲の理解と適切な支援が必要です。
お子さんのことで気になることがありましたら、いつでも学校にご相談ください。子供一人一人の教育的ニーズを把握し、今後の指導・支援に役立てたいと思います。

○裏面の「保護者の気づきシート」にご記入いただき、ご相談ください。

（　　学校名　　）



秘　保護者の気づきシート

（　）年（　）組（

学校生活で必要な指導・支援を行うためにおたずねします。
当てはまる項目がありましたら《ある○、すこしある△》をつけてください。
その他の欄には、お気づきなどございましたらご記入ください。

	項　目	○／△
学習面	① 基礎的な計算や漢字の読み書きが苦手である。	
	② 聞きまちがいや、聞きもらしがある。	
	③ 指示されたことを、理解するのが難しい。	
	④ 適切な速さで話すことが難しい(とてもゆっくり、または、とても早口)。	
	⑤ 文字を書くときに、文字がずれたり、時間がかかったりする。	
	※ その他(	
行動面	⑥ 忘れ物が多い。　学習に必要なものを無くしてしまう。	
	⑦ 落ち着きがない。　じっとしていられない。	
	⑧ 集中力が持続しにくい。	
	⑨ ほかの人がしていることを、さえぎったり、妨げたりする。	
	⑩ 過度に口数多く話す。	
	※ その他(	
対人関係	⑪ コミュニケーションが苦手である。	
	⑫ 相手の表情や仕草から、気持ちを察することがむずかしい。	
	⑬ たとえ話や冗談がわからず、言葉通りに受けとめてしまう。	
	⑭ 自分の行動や考えに、強くこだわる。	
	⑮ 自分なりの日課や手順があり、急な変更や変化をとても嫌がる。	
	※ その他(	

その他（上記以外の気づきや学校への要望・質問などございましたらご記入ください。）

※　お手数ですが、封筒に入れて、のり付けをして、担任へご提出ください

理解する
認める

特別支援学級及び通級指導教室においては、
一人一人の障がいの状態に
合わせた適切な教育課程の
編成をお願いします。

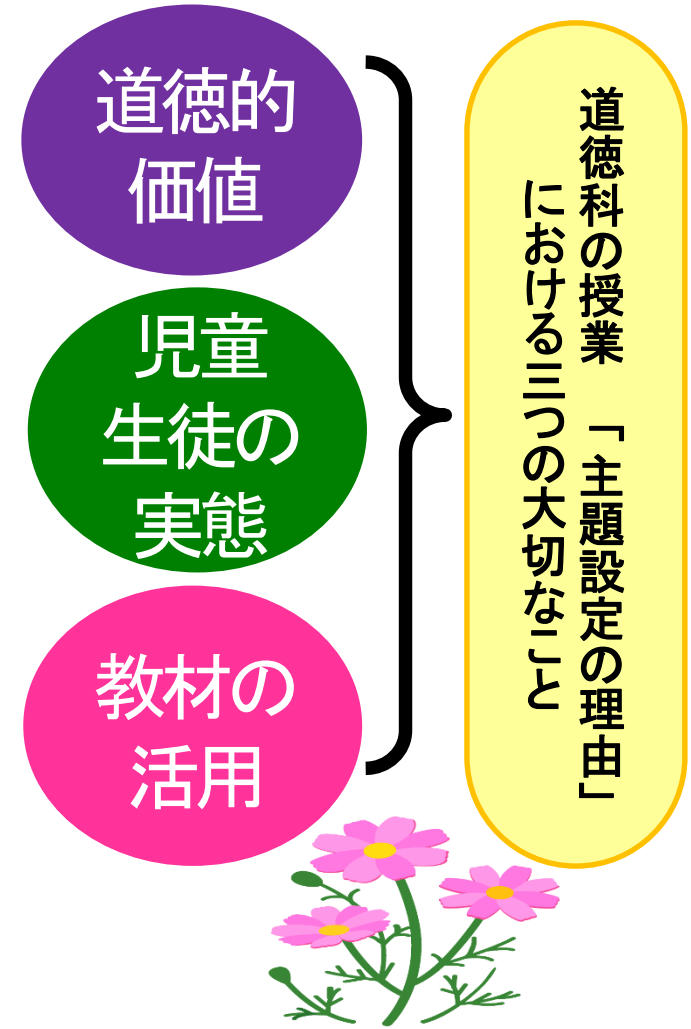
※「保護者の気づきシート」(荒玉地域特別支援連携協議会作成)
早い時期から必要な支援を受ける機会を得るために、
全保護者にご活用ください。

2　豊かな心の育成
(1)道徳教育の充実

管内における道徳教育の推進状況

項目	研究授業及び授業研究会の実施状況	「熊本の心」を扱った授業公開の実施状況
小学校	41校(100%)	39校(95%)
中学校	15校(100%)	14校(93%)

(※目標値100%)



Point

道徳科の授業
- ☆ 多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- ☆ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

２　豊かな心の育成
(2)人権教育の充実

管内における推進状況（令和元年度人権教育推進状況調査から見える成果）

☆研修の充実・工夫
- 内容の充実（児童生徒理解のための情報交換、同和問題、集団づくりの取組等）
- 方法の工夫（講師招聘による講話、参加体験型、現地学習等）

☆家庭・地域、関係機関との連携推進
- 学校からの積極的な情報発信、校種間の連携等

各学校において、今後より一層の充実を

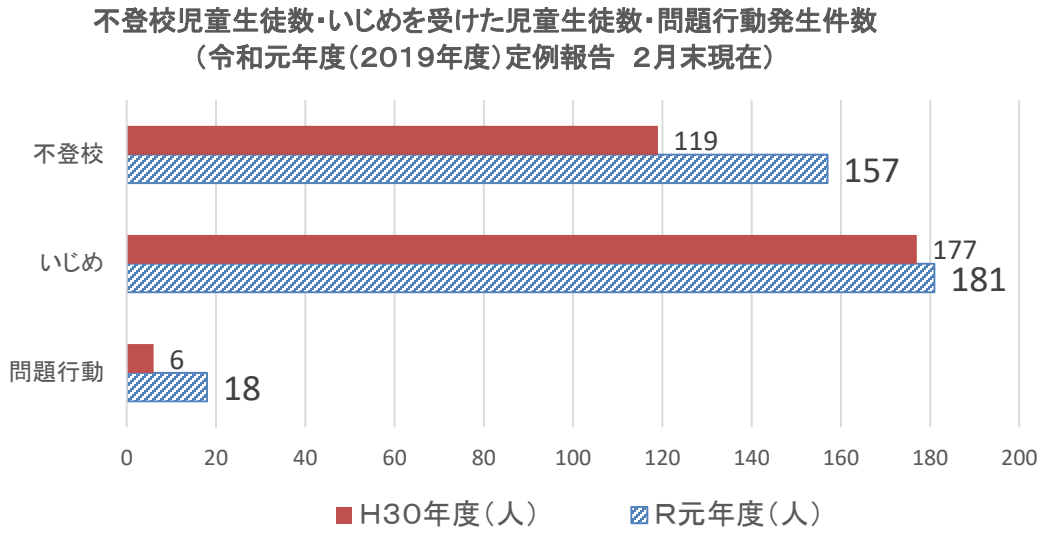
〇教職員の人権問題に対する基本的認識
- 特に、同和問題（部落差別）やハンセン病回復者等の人権について
- 正しい理解につなげるための自由な意見交換等の推進

〇「多様性」に対する教職員及び児童生徒の理解促進

〇人権教育を通じて育成したい資質・能力の明確化
- 実態に応じた全体計画・年間計画の見直し（重点的な取組の位置付け）
- 教科等の授業を通じた人権教育の推進についての理解

2　豊かな心の育成
(3)生徒指導の充実

管内の現状　〇不登校児童生徒数、いじめを受けた児童生徒数、問題行動件数は、いずれも増加。
〇スマートフォンの所有率が、小 学校・中学校において、いずれも増加。



〇各学校のＳＳＷ、ＳＣの活用率　１００％

〇ＳＳＷ、ＳＣの支援申請者数　３３０件
（昨年度比　＋４０件）

〇情報通信機器の所有率について
（令和元年度　「心のアンケート」結果より）

	小学校		中学校	
情報通信機器	Ｈ３０年度	Ｒ元年度	Ｈ３０年度	Ｒ元年度
スマートフォン	18.6%	20.9%	54.1%	60.1%
携帯電話	19.3%	15.6%	10.9%	10.4%
ゲーム機器	57.2%	46.6%	49.8%	52.4%

未然防止及び早期対応に向けて

〇「子どもの居場所づくり推進テーブル」に基づく生徒指導体制の充実。
〇「愛の1・2・3運動＋1（プラスワン）」の徹底。
〇いじめ問題に関する校内研修の実施やいじめ防止基本方針の確認、見直し。
〇児童会 ・生徒会等の活性化を通して、いじめを許さない学校・学級づくり。
〇情報モラル教育の充実と家庭への啓発。

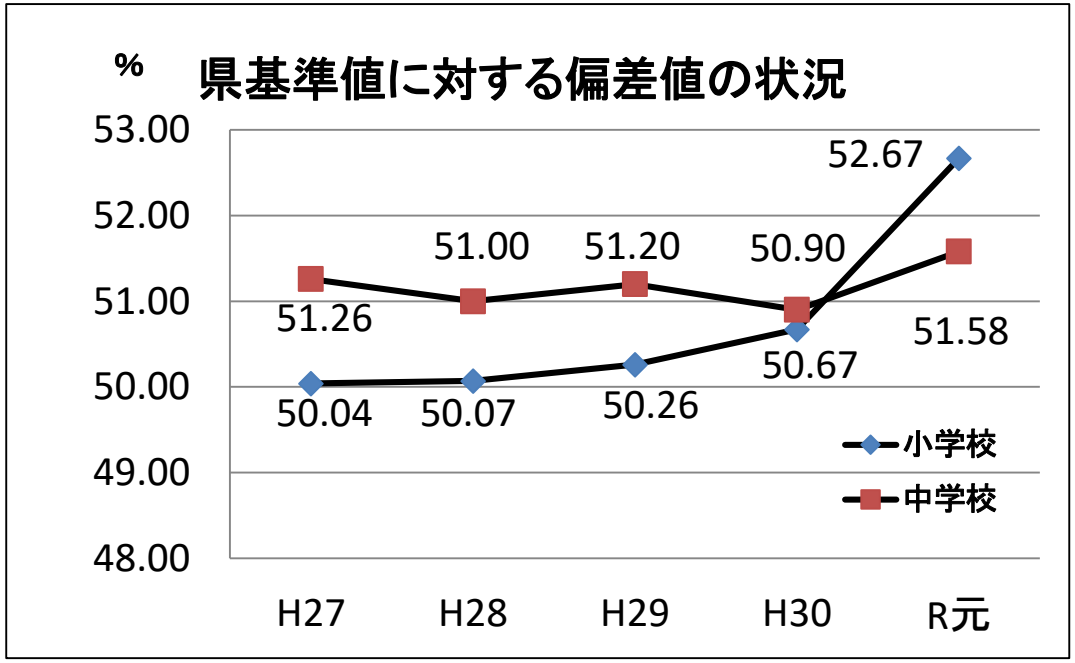
３　健康・体力の向上
（１）学校体育の充実

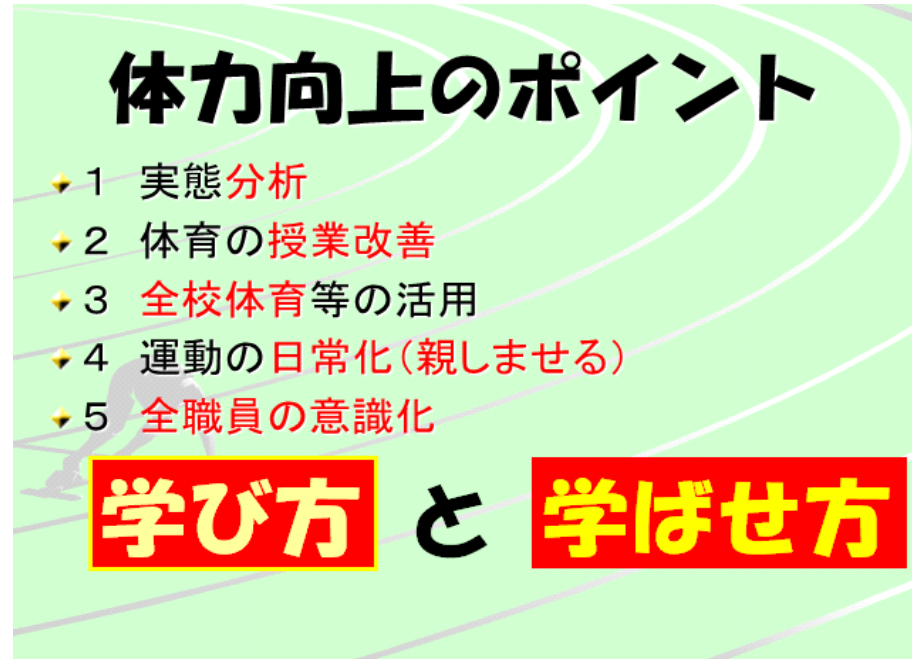
管内の現状【体力・運動能力調査より】

小学校・中学校ともに県平均を上回る
小学校は大きく伸びてきている

今後の方向性

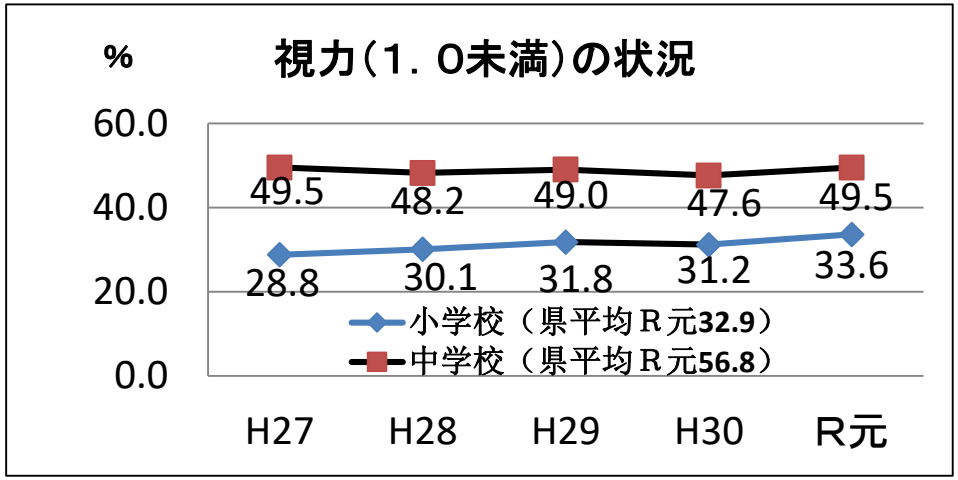
体育授業の改善　⇒　運動好きな子どもの育成　⇒　生涯にわたって健康

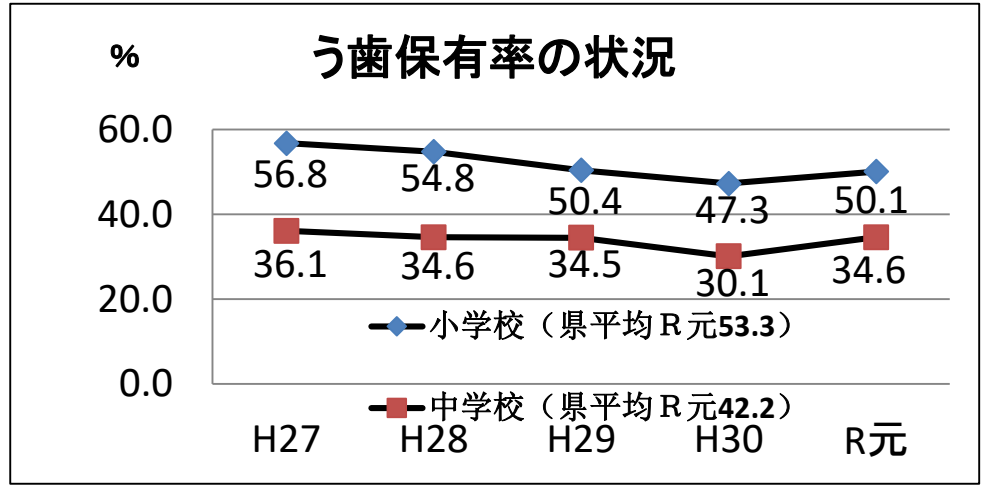


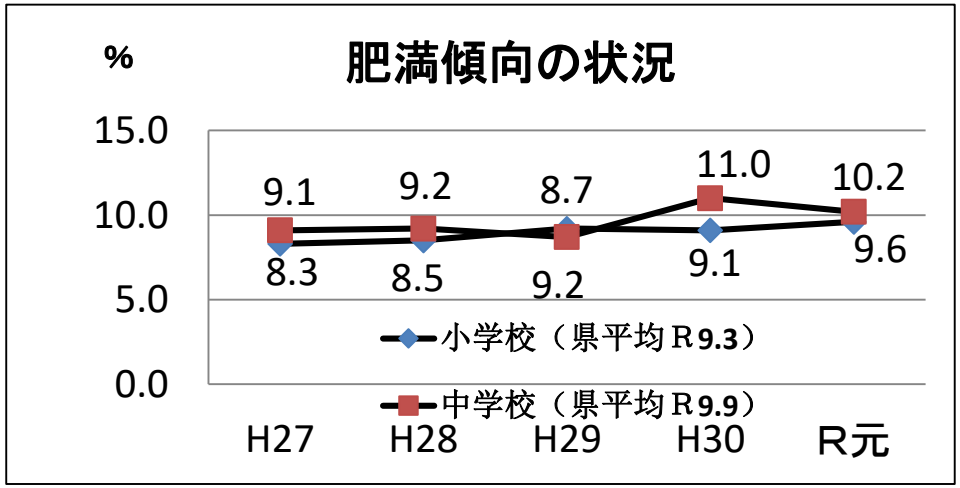


３　健康・体力の向上
（２）学校保健の充実

管内の現状【学校保健（健康状態）統計調査より】
視力（１．０未満）・う歯保有率・肥満傾向の児童生徒は増加傾向







【学校の健康課題】
生活習慣の乱れ・歯と健康問題・心の健康問題が小中学校ともに上位を占める。

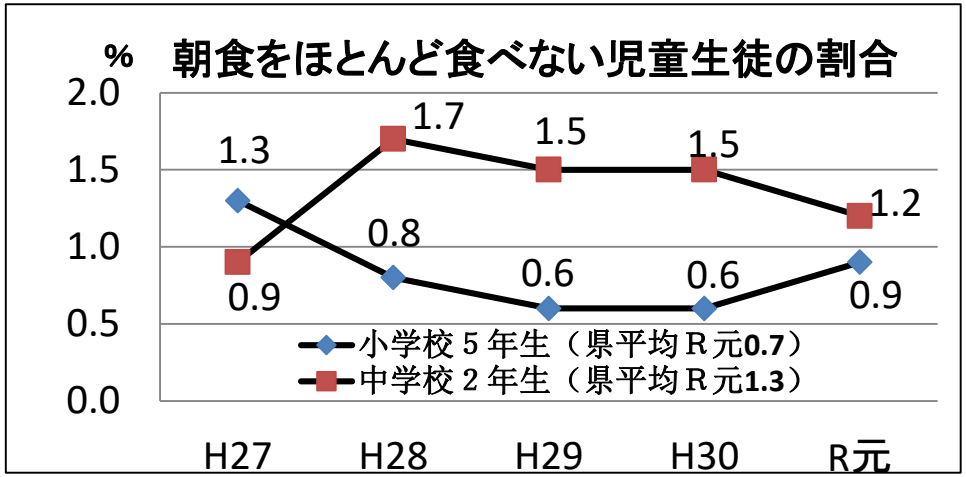
↓

学校だけでなく、家庭・地域と連携して健康課題を解決していくことが必要。

３　健康・体力の向上
（３）食に関する指導の充実

管内の現状【食育推進調査より】

小学校：向上傾向　中学校：下降傾向



正しい知識と
望ましい食生活

↑

連携
学校・家庭・地域

食に関する指導の手引きの活用を↑

食物アレルギーの対応について

1　体制整備
- ○「学校生活管理指標の提出必須」
- ○校内施設設備や人員配置
- ○実践可能なマニュアルの整備
- ○エピペンの法的解釈や実践的な訓練の実施

2　保護者との連携
保護者からの情報収集及び専門医療機関に関する情報の提供

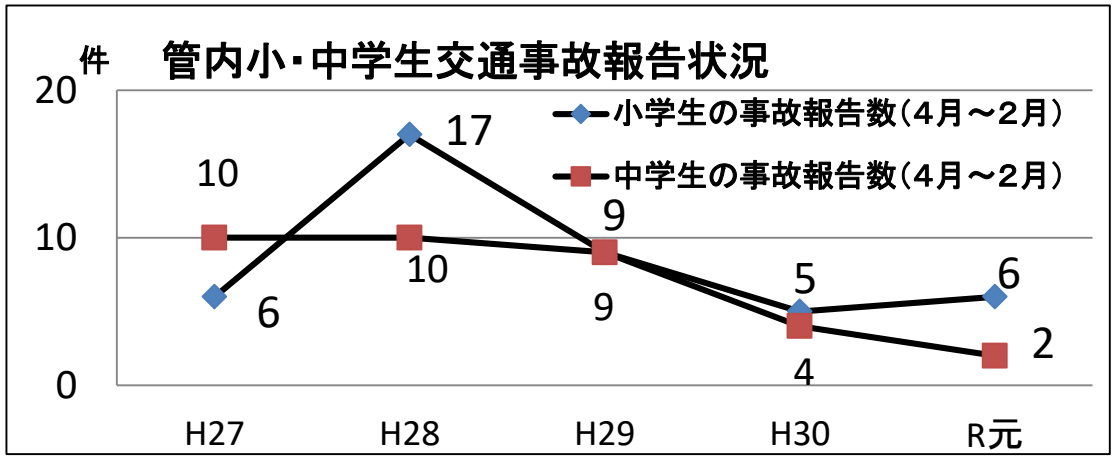
【食生活の課題】
- ・偏った栄養摂取や朝食の欠食などの食生活の乱れが見られる。

【安全面の充実に向けて】
- ・食物アレルギーに関する職員研修の実施と食物アレルギー対応マニュアルの見直し。
- ・給食前の給食当番の健康観察の確実な実施

3　健康・体力の向上
(4)学校安全の充実

管内の現状【玉名教育事務所への交通事故報告より】

中学校の交通事故報告数は減少傾向



【自転車安全利用五則】
1　自転車は車道が原則、歩道は例外
2　車道は左側を通行
3　歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
4　安全ルールを守る
　〇飲酒運転・二人乗り・並進の禁止
　〇夜間はライトを点灯
　〇交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
5　子どもはヘルメットを着用

100%実施

Ⅰ　安全教育	Ⅱ　交通安全管理
◎学校安全計画への「交通安全」の位置づけ ◎危険よそ1区学習の実施 ◎自転車安全利用5則の指導	◎交通事故発生時のマニュアル作成 ◎学校での自転車通学の条件(ヘルメット着用) ◎家庭での自転車使用の条件(ヘルメット着用)

100%を目指したい

Ⅰ　交通安全教育	Ⅱ　交通安全管理
〇交通安全教室の実施(内容:歩行者・自転車) 〇学校安全教育指導の手引きの活用 〇交通安全教育資料の活用	〇加害事故に備えた保健等の対応 〇自転車点検・整備

4　社会に開かれた教育課程の実現
（1）地域とともにある学校づくり

管内の現状

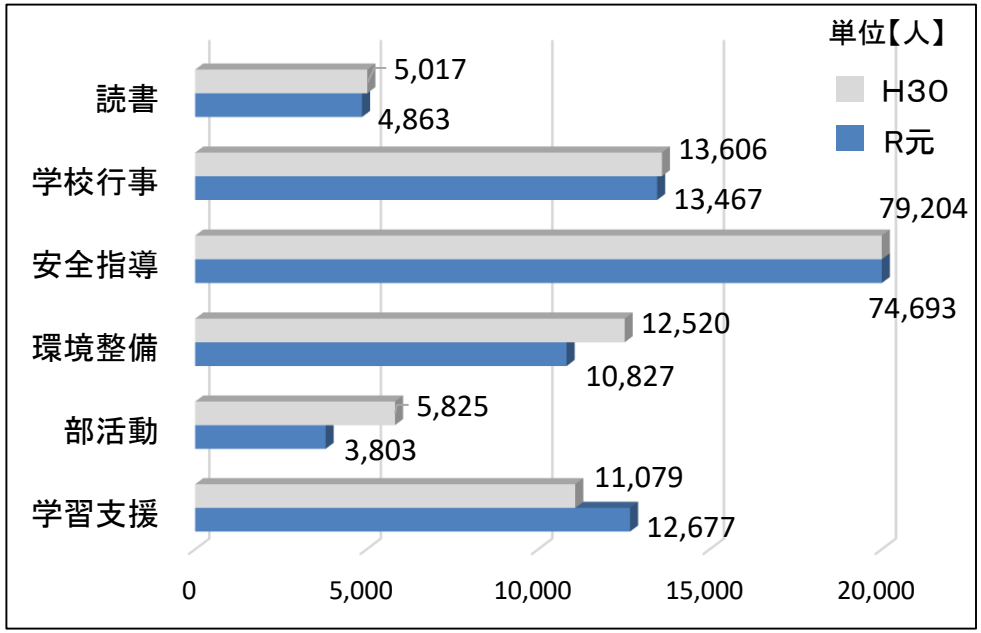
学校支援の総数：約13万人

今後の方向性

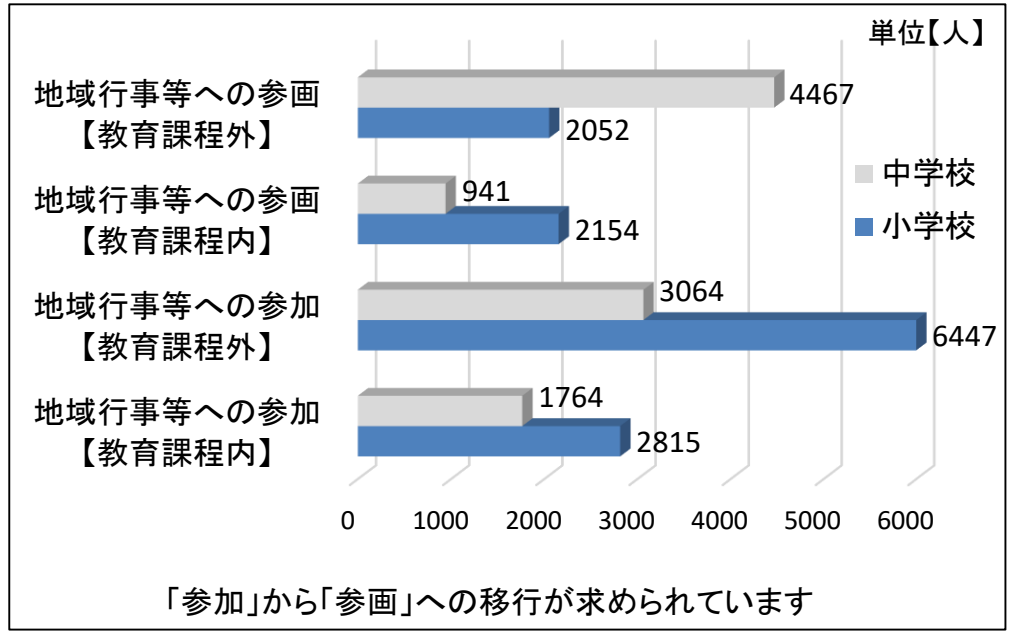
五者（学校・地域・家庭・子供・行政）連携の視点を持つ

これからの時代を生き抜く力の育成（学校だけでは得られない知識・経験・能力）

【管内の学校支援の人数】



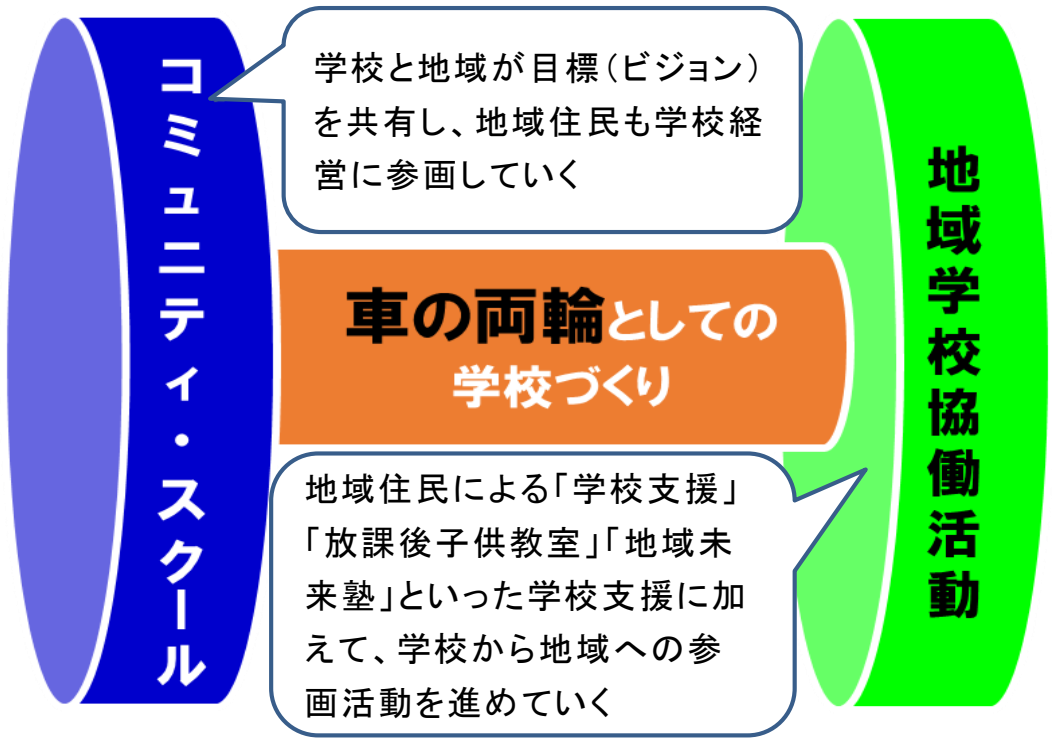
【R元年度 管内の児童生徒の地域行事等への参画人数】



「参加」から「参画」への移行が求められています

4　社会に開かれた教育課程の実現
(2)コミュニティ･スクールと地域学校協働活動の一体的推進について

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は、学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」に転換するための仕組みです。この制度を導入することにより、学校と地域が連携・協働し、当事者意識をもって子供たちの成長を支えていく学校づくりを進めていくことができます。



【コミュニティ・スクール】

玉名中・玉南中・玉陵中・有明中
岱明中・天水中・南関中
玉名町小・玉陵小・横島小
荒尾一小・緑ケ丘小・桜山小
南関一小・南関二小
南関三小・南関四小
長洲小・長洲清里小
Ｒ２より：六栄小・腹赤小
Ｒ３より：腹栄中・長洲中

【熊本版コミュニティ・スクール】

荒尾海陽中・三加和中
腹栄中・長洲中
伊倉小・睦合小・鍋小・高道小
万田小・有明小・中央小
府本小・八幡小・菊水東小
三加和小・六栄小・腹赤小
Ｒ２より：築山小・荒尾清里小
平井小・荒尾三中・荒尾四中

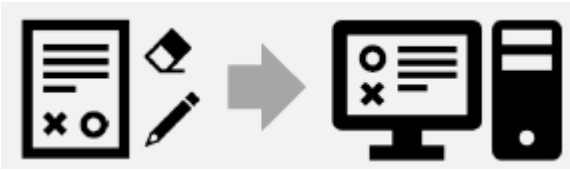
4　社会に開かれた教育課程の実現
（3）幼・保等、小、中連携の充実

＜できている子供の割合（%）＞

調査方法	保護者のアンケートによる調査						担任回答	
調査項目	テレビ等の視聴時間（2時間未満）		就寝時刻（午後10時前就寝）		朝食習慣（毎日朝食）		落ち着いて話を聞くことができ子供が9割以上の学級	
	県	管内	県	管内	県	管内	県	管内
小1	69.0	70.7	79.5	81.9	97.5	98.3	18.2	24.1
小2	65.2	69.6	74.8	76.7	97.3	97	17.7	18.0
小3	61.4	62.4	66.9	68.0	97.5	97.2	17.4	12.0
平均	65.2	67.5	73.7	75.3	97.4	97.4	17.7	18.2
県との比較		＋2.3		＋1.6		±0		＋0.5

「スタートカリキュラム」は、関係園等の意見を受けて作成した後、関係園等へ必ず配付してください。

4　社会に開かれた教育課程の実現
(4)その他
ア　教育の情報化



プログラミング的思考とは？

自分が**意図する一連の活動を実現**するために、どのような**動きの組み合わせが必要**であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように**改善**していけば、より**意図した活動**に近づくのかといったことを**論理的に考えていく力**

情報教育の推進について
【管内で十分・概ね取り組んでいる学校の割合（前年度比）】

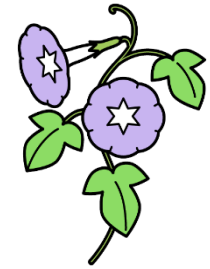
児童生徒の情報活用能力の育成	95.1%(+2.3)
教師によるICT機器の活用	97.6%(+4.7)
校務の情報化について	92.7%(±0)

令和元年度（2019年度）教育指導の実践状況より

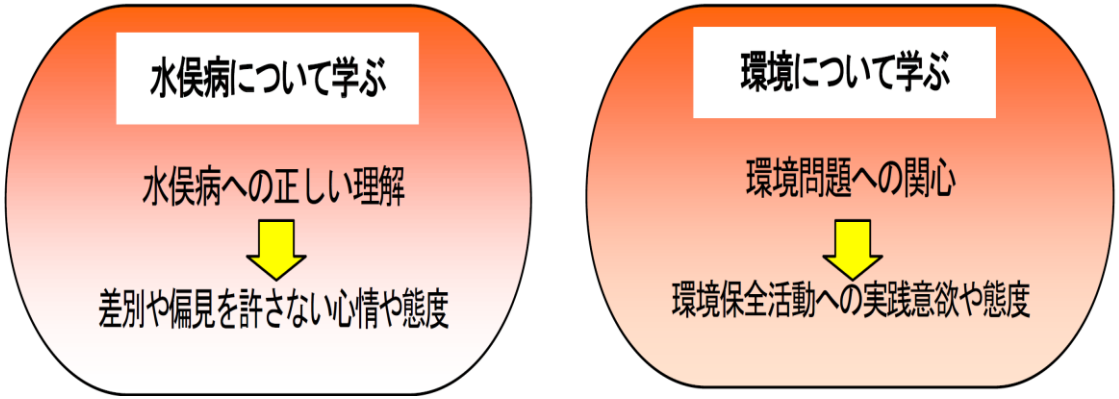
○次年度取組の重点事項
- 小学校プログラミング教育の確実な実施
- 「教育の情報化に関する手引き（令和元年12月）」による授業でのICT活用

（参考資料：授業実践について県立教育センターホームページに掲載）

4　社会に開かれた教育課程の実現
(4)その他
イ　環境教育の充実



「水俣に学ぶ肥後っ子教室」の目的は、以下の2点です。



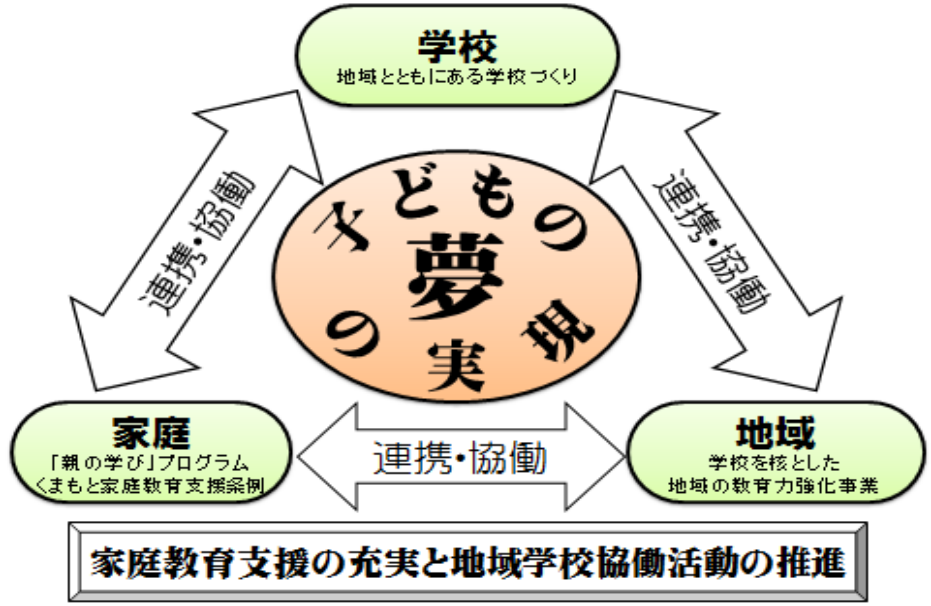
「水俣病について学ぶ」と「環境について学ぶ」の2つのねらいに沿った学習の成果が、他の学年や保護者、地域に発信されています。
本年度の「水俣に学ぶ肥後っ子教室」に参加した管内の児童アンケート結果は、以下のとおりです。自校の結果を書き込み、分析に活用してください。

項目	自分たちの身の回りの環境をよりよくするために、進んで取り組んでいる。	学んだことを通して、学校や学年、学級のおかしいところに気付き、みんなが楽しく過ごすことができるよう行動しようとしている。
取り組んでいる	35．3%（自校　　%）	30．0%（自校　　%）
どちらかといえば取り組んでいる	49．5%（自校　　%）	57．5%（自校　　%）

玉名教育事務所健康教育取組の重点

一人一人の瞳が輝き、命をはぐくみ

元気でたくましい子どもの育成

元気　　夢・感動　　命

玉名教育事務所社会教育取組の重点